

令和7年度 認定こども園 神戸鹿の子幼稚園 学校評価

1. 本園の教育理念および教育目標

【教育理念】

「和」の心を持ち、「努力」を重ね、「夢」に向かう力を羽包む

【教育目標】

健康な体をつくり、情緒ゆたかにして積極性のある行動力を育て、
心身共に健やかで社会に適応できる子どもの育成に努める。

2. 重点的に取り組む目標・計画

1. 主体的、対話的、深い学びを重点とした保育
2. 園内環境の安全・安心促進
3. 地域の子育て支援機能の拡充

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

番号	取り組み	具体的な内容と成果
1	園の種まき活動の実施	<ul style="list-style-type: none">・異文化への興味や多様性への理解を育むことを目的に、タンザニア出身のギセラ先生をお招きした。子どもたちと一緒に園生活を送りながら、スワヒリ語のあいさつや簡単な言葉、伝統的な歌や遊び、文化について教えていただいた。子どもたちは言葉の響きを楽しみながら積極的に声をかけたり、一緒に歌を歌ったりする姿が見られた。・園庭に設けた正月遊びコーナーで、けん玉に興味を示す子どもが多数見られたことから、けん玉パフォーマンスたいが氏をお招きした。パフォーマンス鑑賞、けん玉のコツも教授してもらい、技が成功したときの達成感や、失敗しても何度も挑戦する姿が多く見られ、集中力や粘り強さを育む機会となった。・日頃から音楽に合わせて体を動かす遊びが多く見られたため、その楽しさをさらに広げることを目的に、CoreHabits Dance School の先生をお招きした。「自分らしく表現する」ことを大切にした活動を行い、また、継続的に楽しめるよう毎週木曜日の朝に「ダンスラボコーナー」を設置した。音楽に親しみながら、人前でも楽しく踊る姿が見られた。・園庭でサッカーゴールを使って遊ぶ姿が増えてきたことをきっかけに、より楽しさを深められるよう、ヴィッセル神戸キッズサッカークリニックによるサッカー教室を実施した。ボールの扱い方やチームで協力する大切さを学んだ。友達と声を掛け合う姿も見られ、運動面だけでなく協同性の育ちにもつながった。
1	活動を深める環境設定	<ul style="list-style-type: none">・子ども達の興味や発想がさらに広がるよう、新しい用具や玩具を随時導入した。お家ごっこに興じることの多い0～2歳児クラスにテント、砂場でのプランター遊びができるセット、工事現場ごっこに使用するヘルメット、室内遊びでは大型ラキュー等を様々な玩具を導入することで、子どもたちの遊びの世界をより広げ、友達との対話が生まれ、協力関係が深まった。・今年度も各クラスで子どもたちが育てた野菜を使った調理および試食を行った。自分たちで選び、育て、収穫した野菜（だいこん、じゃがいも、ブロッコリーなど）を調理して食べる経験を通じ、自然環境の関心や感謝の気持ちが育まれた。また、柿を干し柿に加工、収穫した栗を使って「ポン栗」に挑戦する活動も行い、自然の恵みや食材の変化を楽しみながら、五感を使った食育を実践した。

2	施設整備、衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> 安全で快適な環境を維持するため、老朽化していた壁面の修繕工事（2Fピロティ天井部分）および南館1階フロアの張替え工事を実施した。防水機能を強化し、清潔な空間となり、子どもたちがより安心して活動できる環境を整えた。 近年の気温上昇に対応するため、WBGT計（熱中症指数計）を日陰と日なたの2か所に設置し、数値を確認しながら外遊びの時間や活動内容を判断した。今年度ハイパワーミスト扇風機を新たに設置し、体への負担を軽減できる環境を整備した。子ども達が無理なく暑さに慣れていけるよう、安全第一で活動を行った。
1	園内研修と実践	<ul style="list-style-type: none"> 職員によるオリジナル劇を企画、実演。子ども視点で劇づくりに取り組むことにより、どのような支援が子どもたちにとって良いかを考察。子どもたちは歓声をあげながら楽しく観賞し、劇中で使用した小道具を使って園庭でごっこ遊びをする姿が見られた。「創り出す喜び」や「表現する楽しさ」を伝える機会となった。 兵庫教育大学の鈴木教授をお招きし、園内研修を実施した。各クラスの保育を視察後、保育の様子を記録した映像をもとに具体的な助言をもらい、日々の保育を理論的な視点から見つめ直す機会となった。職員間で子どもの姿をより丁寧に読み取る視点が共有され、研修後の振り返り発表を行い、共通理解が深まった。
3	子ども食堂	週に1回程度、学習支援と食事の提供を行う「こども食堂」を開業。毎回10名程の児童が参加しており、宿題の見守りや食事提供を通じて、地域のボランティアの方や友だちとの交流の場となっている。地域の子どもたちが気軽に集え、心温まる居場所となるよう、今後も継続して取り組む。

4. 学校評価の具体的な計画の総合的な評価結果

結果	理由
概ね達成されている	前述の「3. 評価項目の達成及び取り組み状況」に記載

5. 今後の取り組むべき課題

課題	内容
<ul style="list-style-type: none"> 体験活動の多様化と安全管理の両立 地域に開かれた子育て支援事業としての機能拡張(継続) 	<ul style="list-style-type: none"> 運動、表現、創作活動など多様な体験を継続して提供する一方で、安心・安全な環境を維持しながら、子どもたちがのびのび挑戦できる体制づくりを進める。 地域の子育て支援拠点としての拡充することにより、子育てをする家庭を支え、地域全体でこどもの健やかな成長を支援する。

6. 財務状況

監査法人による財務監査により、適正に運営されていると認められている。

7. 情報公開

本学園ホームページに保育活動や基本的な情報を積極的に公開している。
アドレス… <http://kobe-kanoko/net>

8. 学校関係者の評価

- Show&Tellで自分のしたいことを発表することができ、成長した姿をみることができた。
- 園の絵本をもっと多くの方に利用してもらいたい。
- 各学期の委員会で話された内容を共有してもらえると有難い。
- 企画したプログラムへの参加人数をいかに増やすかが今後課題である。
- 新年度準備のため、クラス発表の日をもう少し早くしてもらえると有難い。

学校評価確認者

亀山 秀郎